

一般質問

12月
定例会

産業振興

高知大学との連携意図は

実践的活動で産業振興を

／産業振興課長



にしむら さくお
西村 策雄 議員

な活動を図ることを目的としている。

農林水産業のカットオ、サトウキビ、七立栗栽培と観光など7項目を協議している。

町の生産額は20年度22億429万円で2941万円の増。今後は町内の農産物を活用し商品づくりに取り組む。

公共交通

町民の交通手段の確保は

鋭意検討している

／本庁総務課長

問

① 高齢者の交通事故の多発、体調不良等で、車を手放す人が増えている。中山間地域や

浦々の人が、買い物や病院等へ行くのに不便をしている。大豊町の方式を提案したが、その後どうなっているか。

② 片坂バイパス工事で拳ノ

川地区の地権者への対応は十分できているか。

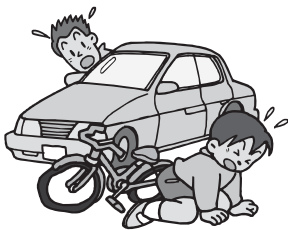
答

植田本庁総務課長

中島佐賀まちづくり課長

① 最近では高齢者の交通事故が多発しており、免許証の返上をする高齢者も増加している。そのため、大変不便をしている高齢者も多い。町は公共交通会社に補助を行うと同時に、地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、鋭意検討している。

② 片坂バイパス工事では、市野瀬、佐賀橘川、拳ノ川地区と今後予想される課題について、国交省や地権者と共有した体制をとっていく。



拳ノ川診療所

地域医療を問う

定住自立圏協定を

活用し充実に努める

／佐賀健康福祉課長

問

拳ノ川診療所には地域医療を守ってきた歴史がある。中山間地域、浦々を始め、黒潮町の医療をどのように考えているか問う。

答

大塚佐賀健康福祉課長

定住自立圏協定
ひきた
正田医師が旧佐賀町立拳ノ川診療所に勤務されて以来、満足死を提唱するなど、ユニークな活動を続けてきた。

後任の花田医師は保健センターを中心とし、地域住民の健康を守るため、地域医療と福祉の充実に取り組んでいる。

この度、定住自立圏協定の中で四万十市、宿毛市と連携を図り、拳ノ川診療所の医療機能維持と充実に努める。

松田産業振興課長

答

町長はこの10月に、高知大学と、町の事業について連携をしていくために調印式を行ったようだが、具体的なものは何か。

また、平成21年度の町の農林水産業の生産額を問う。

高知大学と町の協定については、大学と町が構築してきた知識を提供しあい、実践的